

2010年に向けた計測・制御技術

Measurement and Control System Technologies toward 2010

上下水道、ビル、道路、空港施設などの社会インフラシステム、原子力、火力、水力などの電力システム、及び装置産業や製造業などの産業システムにおいて、その核となる計測・制御システムの重要性がますます高まっています。今後の5年間を展望すると、本格的なIT(情報技術)社会に対応し、とりわけ、社会の安心・安全と地球環境に配慮しつつも、生産・操業の仕組みに最適なシステムの構築が求められています。

生産・操業現場に設置されるキーコンポーネントの計測機器や制御システムには、ライフサイクルコストの極小化に挑戦し、安心・安全や環境のため新しい役割を果たすうえで本質的な要件があります。東芝は、それらの要件として、①お客さまが既存の資産を継承できるようにするための継続性、②種々の設備の特性に合った監視・制御を確保するためのロバスト性、③新技術のタイムリーな導入による将来への発展性、そして、④有害物資の削減や温暖化防止など地球環境への負担軽減、の四つが重要と考えています。

今年は、当社の創業130周年にあたり、また、制御システムにおいても、1975年に当社が業界の先駆けとしてデジタル制御システムのTOSDIC™を発表してから30年目という節目の年となります。この間、現在の統合コントローラVシリーズに至るまで、継続性、信頼性、及び発展性の思想を徹底的に注入した製品開発を行い、お客さまへのソリューションを提供し続けています。また、IT時代の計測・制御システムのプラットフォームでもある産業用コンピュータ、プロセス基本コンポーネントであるプロセスセンサ、更に、これらのコンポーネントを使用したシステムインテグレーションビジネスでも、この思想がしっかり貫かれています。一方、将来への発展性の側面からは、今、IEC(国際電気標準会議)の市場指向(Market Relevant)に代表される新しいパラダイムで進展している国際標準技術への積極的な提案も行っています。

この特集でその一部を紹介する当社の計測・制御システム技術は、お客さまが築いてこられた資産を継承しつつ、2010年に向かって進展する安心・安全な環境調和社会の重要なコアとなるものと確信しており、その取組みをご理解いただければ幸いです。



尾花 英夫
OBANA Hideo